

画像処理技術一般の中で、特に産業応用を視野に入れたものはマシンビジョンと呼ばれ、その基礎技術の発展とともに、様々な作業目的に対する実用的な応用事例も多く報告されてきています。このような中で、2019年5月27日から31日の5日間、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、MVA組織委員会の主催により「MVA2019: International Conference on Machine Vision Applications」が開催され、活発な議論が行われます。

この国際会議 MVA2019 の開催に合わせて、同会議のトピックであるマシンビジョンとその応用に関する論文小特集(2020年6月号)を企画致しました。本小特集では、この国際会議 MVA2019 で発表された論文に限らず本小特集の対象分野における一般の投稿を広く募集致しますので、皆様からの投稿をお待ち致します。

## 1. 対象分野

### ・アルゴリズム

特徴抽出, 距離画像, 三次元形状解析・再構成, 動画画像解析, カラー画像解析, ニューラルネット応用, パターン認識など

### ・アーキテクチャ

ビジョンチップ, 視覚センサ, 3D・動画画像処理のためのアーキテクチャ, 分散協調システム, 画像処理・解析ソフトウェア環境など

### ・応用技術

FA: 検査, 診断, 組立など

ITS: 交通監視, 交通管制, 安全運転支援, 自動料金収受など

ロボット: ホームロボット, 移動ロボット, サービスロボット, 宇宙ロボットなど

セキュリティ: 監視, 生体認証, 個人認証, ホームセキュリティ, 犯罪科学など

医療: 医用画像診断支援, 遠隔医療, 二次元/三次元生体医用画像処理など

マルチメディア: 画像検索, 図面処理, デジタルアーカイブ, マルチメディアデータベースなど

HCI: 顔認識, ウェアラブルコンピューティング, マルチモーダルインタフェースなど

ビジョンとグラフィックス: 仮想現実, 複合現実感など

その他: 建築, 土木, 農林業, 漁業, その他の関連技術アルゴリズム

## 2. 論文の執筆と取扱い

通常の英文論文と同一とします。ページ数は、原則として、論文の場合は刷り上がり8ページ、レターの場合は刷り上がり2ページを標準とします。初期投稿時のレターの最大ページ数は4ページです。標準ページ数を超えると、掲載料が急に高くなりますので御注意下さい。投稿論文は、会議採録論文からの拡張を必要とします。執筆の要領の詳細については、[http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji\\_iss.html](http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html)に掲載されている“The Information for Authors”を御参照下さい。

## 3. 論文投稿締切日 2019年8月31日(土) 厳守

## 4. 投稿方法

投稿は、本会電子投稿システム [https://review.ieice.org/regist\\_e.aspx](https://review.ieice.org/regist_e.aspx) による電子投稿のみとします。初期投稿時に、編集可能な論文本体 (TeX/Word)、図、著者の写真、biography も投稿する必要があります。なお登録時には必ず“Journal/Section”で [Special-MV] Machine Vision and Its Applications を選択して下さい。[Regular-ED] や他の特集を選択されませんよう御注意下さい。

小特集ということから、査読後の再提出期間(通常は60日)を短縮することがあります。

## 5. 問合せ先

浮田宗伯 豊田工業大学

TEL [052] 809-1832, E-mail: [ukita@toyota-ti.ac.jp](mailto:ukita@toyota-ti.ac.jp)

## 6. 小特集編集委員会

委員長 Atsuto Maki (KTH)

幹事 Paolo Favaro (Universität Bern), Ryuzo Okada (Toshiba), Norimichi Ukita (Toyota Technological Institute)

委員 Aurelio Campilho (Universidade do Porto), Boxin Shi (Peking University), Carlo Colombo (University of Florence), Cees Snoek (University of Amsterdam), Federico Tombari (Technical University of Munich),

Kazunori Okada (Sun Francisco State University), Ko Nishino (Kyoto University), Kwan-Yee Wong (The University of Hong Kong), Masayuki Tanaka (Tokyo Institute of Technology), Noriko Shimomura (Nissan), Rei Kawakami (The University of Tokyo), Shin'ichi Satoh (National Institute of Informatics), Tomas Pajdla (Czech Technical University in Prague), Yoichi Sato (University of Tokyo), Yoshihisa Ijiri (Omron)

#### 【重要なお知らせ】

Webによる電子投稿の際，“Copyright Transfer and Page Charge Agreement”に承諾して頂きます。

著者のうち少なくとも1名は本会会員でなければなりません。ただし招待論文に関してはこの限りではありません。必要な投稿資格を満たしていない著者からの投稿論文については、投稿を受け付けないことがありますので御注意下さい。入会案内はこちらを御覧下さい。

<http://www.ieice.org/jpn/join/index.html>

採録が決まった論文等の著者（招待論文も含む）には、編集用ファイルの提出方法に応じて掲載料が請求されます。

招待論文を含むすべての著者は、論文が採録となった場合、2020年2月頃に掲載料をお支払い頂くことになります。2020年3月15日までに支払いが完了しない場合には、採録取り消しとなります。

オープンアクセスオプション：電子情報通信学会論文誌は、2019年1月号掲載論文から、著者が通常の掲載料に加え追加料金を支払うことで、論文をオープンアクセスにできる選択肢を試行的に提供致します。オープンアクセスオプションに関する詳細は、Information for Authors ([http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji\\_iss.html](http://www.ieice.org/eng/shiori/mokuji_iss.html))を御参照下さい（オープンアクセスオプションは試行段階であり、予告なく変更されることがあります）。

著作権上の問題から国際会議予稿集に掲載された論文をそのまま投稿頂くことはできません。必ず論文誌掲載用に説明、実験などを拡張した原稿をお送り下さい。